



平成21年度若手研究成果報告会

本グローバルCOEの研究主題として掲げる【論理と感性】の先端的研究を行う、若手研究者25名が、脳と進化、遺伝と発達、言語と認知、哲学・文化人類学、論理・哲学など、平成21年度の研究成果を発表致します。

日時：2010年2月1・2日(月・火) 12:30～18:00

場所：三田キャンパス北館大会議室

2月1日(月) 発表者・演題

- 石井 拓 12:40～13:00
コモンマームセットにおけるシヨ糖溶液消費量の
価格弾力性
- 山崎 由美子 13:00～13:20
ニホンザルの道具使用獲得にともなう行動型の
変化
- 加藤 真樹 13:20～13:40
コモンマームセット脳における言語関連遺伝子の
発現解析
- 伊澤 栄一 13:40～14:00
カラスにおける優劣関係維持に関わる神経回路
の探索
- 染谷 芳明 14:30～14:50
仮名表記した文字の理解に関わる脳機能の解析
- 山本 絵里子 14:50～15:10
バイオロジカルモーション知覚に関わる脳部位
の検討
- 田谷 文彦 15:10～15:30
学習におけるフィードバックの役割
- 辻井 岳雄 15:30～15:50
論理的思考における下前頭前野の役割：演繹
的推論に及ぼす信念一致効果の検討を通じて
- 敷島 千鶴 16:20～16:40
一般知能測定のための簡易尺度開発の試み
- 高橋 甲介 16:40～17:00
刺激間の関係学習の観点からの自閉症児支援
- 太田 真理子 17:00～17:20
聴覚刺激に対する心臓反応と光トポグラフィ
信号・脳波の関係解析
- 皆川 泰代 17:20～17:40
GCOE赤ちゃん・ちびっくらぼにおける研究
- 佐治 伸郎 17:40～18:00
第二言語習得における複数語彙の意味関係理
解に関する研究

2月2日(火) 発表者・演題

- 一方井 祐子 12:30～12:50
セキセイインコにおける第三者関係の理解
- 日根 恭子 12:50～13:10
未来についての想像が顔の再認課題へ及ぼす
影響の検討
- 島田 純理 13:10～13:30
サイズの測り方—自然言語における「存在量化」の
ルベグ積分による分析—
- 佐々木 掌子 13:30～13:50
性同一性障害傾向に寄与する遺伝的影響の
発達的变化
- 植村 玄輝 14:20～14:40
三つの論理学概念と命題の存在論：
フッサールの「プロレゴメナ」再訪
- 串田 裕彦 14:40～15:00
ゲーデル文の様相論理について
- 石田 京子 15:00～15:20
感情と法の関係—政治的リベラリズムの観点から
- 秋吉 亮太 15:20～15:40
証明論的手法による二階論理の論理哲学的研究
- 馬場 鉄平 16:10～16:30
パークリーによる懐疑論の解決について
- 鈴木 康則 16:30～16:50
初期デリダにおける歴史哲学の問題
- Mohácsi Gergely 16:50～17:10
糖尿病とストレス：人類学からみた論理と感性の
通約性
- 星 聖子 17:10～17:30
Logic in Church Decoration：
15世紀ヴェネツィアにおける教会堂装飾を例に